

113 城光院の石造庚申塔

じょうこういん せきぞうこうしんとう
 城光院の石造庚申塔



指 定 市有形文化財 昭和61年 9 月10日
 所在地 望 月
 所有者 城 光 院



仏教の青面金剛は、病魔・病鬼を払い除く仏であり、庚申信仰は道教の三尸説によるものである。この二者が習合し、青面金剛が庚申塔の主尊となった石仏が出現するのは、江戸初期の寛文・延宝期とされている。この像は初期の延宝年間の造像であって大型で彫も良く姿の美しい石仏の傑作である。台座の蓮弁毎に造立者名及び造立年月日が銘記されている。

法量は、像高75cm、肩幅20cmである。